資料

REHACARE 2023 に参加して

松本　勝[1§]

2023 年 9 月 13 日から 16 日までの 4 日間，ドイツ・デュッセルドルフにて開催された，リハビリテーションと介護の国際見本市「REHACARE（International Trade Fair for Rehabilitation and Care）2023」に参加した．REHACARE はリハビリテーション・福祉・介護機材に関する欧州最大の国際専門見本市である．2023 年の REHACARE では来場者数は 3 万人に上り，37 ヵ国・地域から 700 社以上が出展した．出展者はバリアフリー設備，日常生活用モビリティ，歩行補助具から子供用補助具まで，さまざまな新しいイノベーションを発表し，今年の REHACARE も盛況のうちに幕を閉じた．

デュッセルドルフは，ドイツ北西部のノルトライン・ヴェストファーレン州の州都，ライン川沿いに位置する美しい都市であり，ドイツでも有数の経済都市である．趣のある石畳のアルトシュタット（旧市街）は「世界一長いバーカウンター」と呼ばれ，地ビールのアルトビアを手にしたドイツ人や観光客で賑わう．また，デュッセルドルフには 400 社以上の日系企業があり，多くの日本人が在住している．欧州最大の日本コミュニティーがあり，日本食スーパーや日本食レストランが充実しているだけでなく，それらが集まるインマーマン通りは「リトルトーキョー」とも呼ばれる．日本同様に四季があるが，年間を通して日本よりも気温は低く，デュッセルドルフは北海道よりやや北に位置しており，冬は厳しい寒さが続き，夏は湿度が低いため気温が上がっても比較的過ごしやすい気候が特徴的である．9 月の滞在中は最高気温が 20℃前後，最低気温が 10℃前後であり，日本の同じ時期よりはかなり気温が低く，半袖のインナーの上に長袖のジャケットを羽織る程度で過ごしやすい気候であった（図 1）．このような都市のメッセ会場にて，毎年この季節に REHACARE が開催されている．

我が国では介護保険が 2000 年からスタートし，高齢社会を支える仕組みとして定着した．介護保険の居宅サービスでは福祉用具の利用率が最も多く，高齢者にとって福祉用具はとても身近なものとなっている．今後の生産年齢人口の減少を見据え，ロボット技術を利用した福祉用具の開発・普及を促進する国レベルでの事業が推進されている．開発された介護ロボットの高齢者施設への導入支援政策の拡充，アシスト機能付き歩行器，高齢者施設での夜間の見守り装置などが介護保険で評価されるなど，介護現場でのテクノロジーの活用が進められ，福祉用具の社会的注目度はますます高まっている．高齢社会に関する課題先進国である日本のこれらの取組みは海外から注目をされる一方で，海外においても様々な福祉用具が開発され活用が図られている．今回 REHACARE に参加した目的は，欧州最大の見本市に参加し「最新の福祉用具に見て触れて，今のトレンドを知ること，今後さらにどのような福祉用具の開発が必要になるかと考えること」であった．

図 1　会場にて幅大二郎氏（東京大学）と撮影（左が著者）

メッセ会場は大きくスポーツセンター，リハビリテーション関連，車関連，自助具関連，小児関連の福祉用具のブースに分けられていた．さまざまなブースを回りながらまず驚いたことは，日本と展示会とは来場者層の違いがあり，車いすなどの福祉用具の利用者やその関係者が非常に多いことである．会場内で借りられるものも多数ありそれを体験している人もいるが，実際に障がいを持ち福祉用具のユーザーとして参加する人が多く，彼らが生き生きと，周りに遠慮することなく堂々

[1]石川県立看護大学
[§]責任著者

とブースを回り，メーカーとやりとりするなど，参加できていることに日本の展示会とは違った空気を感じた．また，スポーツセンター（図２）ではノルトラインヴェストファーレン州障がい者・リハビリテーション・スポーツ協会（Behinderten- und Rehabilitationssportverband Nordrhein-Westfalen e.V.: BRSNW）の主催により，障害のある人も持たない人も，インクルーシブ・スポーツを体験し一緒に楽しむことができる場が提供されていた．セーリングからパラゴルフ，登山やダンスまで，幅広くスポーツを体験する機会が数多くあった．皆が一緒に，平等に参加できるイベントであると言う点が日本で行われているような国際福祉機器展とは大きく異なることがわかった．さらに，特に欧州の福祉用具は性能や使い勝手もさることながら，色使いやデザインが素晴らしく，「かっこいい」「自分ならこんなものを使ってみたい」と感じるものが多かった．これは今後の福祉用具の開発において，普及を見据えた時に重要な要件であると改めて感じた．

図２　会場の様子（スポーツセンター）

REHACARE の重要性はヘルスケア産業のためのプラットフォームとして機能するという点にある．REHACARE は関連協会，自助グループ，ユーザー，メーカー，医療従事者などの関係者が一堂に集い，福祉・介護機器分野における最新の製品や業界トレンドに関する情報交換・発信などができる場となっている．今年はリハビリテーションと介護に大きなイノベーションをもたらすデジタル化やロボティックスの進化についても多数紹介され，デジタル看護支援システム，遠隔医療アプリケーション，看護／介護ロボット，スマート介護ベッドなどがその筆頭であった．福祉用具としては，自立を促すようなものも多かった（図３，図４）。これらのイノベーティブな製品は，患者，入所者介護の向上，業務効率の向上，生活の質の向上に繋がると考えられることから，今後の動向に注目する必要がある．次回 REHACARE は 2024 年 9 月 25 日から 28 日に同じくデュッセルドルフで開催される予定である．

図３　手の動きをサポートする自助具

図４　スマートフォンで操作し
自分で階段を昇降できる車いす

Participation in REHACARE 2023

Masaru MATSUMOTO